

こすもスマイル 15号

発行：小林市立病院 地域医療連携室 令和7年9月

～副病院長のあいさつ～



皆様には日ごろより小林市立病院との地域連携にご協力いただき、ありがとうございます。

今年の夏も連日の猛暑が続きましたが、その中でも熱戦を繰り広げる甲子園高校野球の選手たちに感動させられました。体調に注意しながら、日頃の努力の成果を発揮できるよう、応援したいものです。

最近、新燃岳の噴火や集中豪雨などが西諸地区でもみられましたが、豪雨などの被害は日本各地でも起こっています。常に防災の心がけが大切であることを痛感します。

コロナ感染もまた流行しているようで、入院や外来受診される患者さんがおられます。そして毎日のように一日数名の熱中症の患者さんが救急外来を受診されています。マスク、手洗い、うがいなどの感染予防対策、熱中症予防のための適切な水分摂取やエアコンの使用を心がけて、健康に過ごしていただきたいと思います。

また小林市立病院は西諸県郡の地域医療支援病院、感染症指定医療機関、災害拠点病院であり、地域医療を支えるとともに、新型コロナウイルス感染や災害時の地域の役割の重さを痛感しています。そのために、当院においても通常の患者さんの診療とともに職員の感染予防策を行っています。患者さんやご家族に様々なご不便をおかけしていると思いますが、ご協力をお願いいたします。

私は手術患者さんの術前、術中、術後の麻酔管理にたずさわっていますが、安全な手術が円滑になされ患者さんが良好な手術後経過をたどられるよう、手術室・病棟看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、臨床検査技師、放射線技師、臨床工学技師など、多くのスタッフとチーム医療を心がけています。

小林市立病院 副病院長 麻酔科科長兼任 窪田 悦二

【理 念】

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯（しんし）な姿勢で日々研鑽（けんさん）に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します



整形外科紹介



いつまでも暑さが去りやらぬ毎日ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今回は、整形外科で取り組んでいる『FLS』について紹介します。

『FLS』とは骨折リエゾンサービス（Fracture Liaison Service）の略で、二次骨折（一度骨折した人が再び骨折すること）を防ぐ取り組みです。具体的には、医師、看護師、理学療法士、薬剤師、放射線技師、栄養士、医療相談員など多職種が連携し、骨粗鬆症の治療開始、継続をサポートし、転倒予防の実践を通じて二次骨折を防ぎます。

骨粗鬆症を未治療のまましていると、骨がもろくなり骨折しやすい状態になります。骨折は死亡率に影響を及ぼすことが知られています。1年後で約20～30%、5年後には60%～70%の死亡率です。癌の死亡率とほとんど変わりありません。また、寝たきりなどにつながり介護度をあげる要因、認知症のリスクが高くなると言われています。

当院ではFLSチームを結成し、大腿骨近位部骨折患者を対象に早期手術を行い、骨粗鬆症の治療を開始し指導を行っています。多職種のスタッフが介入し、治療の継続、転倒予防のリハビリ、生活環境の整備等を通じ退院後の再骨折リスクを防ぐ事を目標に活動をしています。

当院には骨粗鬆症マネージャーがいますので、骨粗鬆症が気になる方は整形外科外来までお気軽にお問い合わせ下さい。

◆当院のFLS介入前後における骨粗鬆症治療状況を比較◆

FLS 介入なし

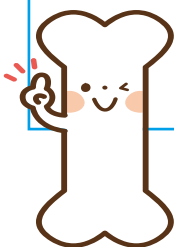
**骨粗鬆症
治療開始率
34.6%**

FLS 介入あり

**骨粗鬆症
治療開始率
100%**

**30ヶ月までの
再骨折率
27.2%**

**30ヶ月までの
再骨折率
3.2%**



FLS チーム

整形外科医：上通 一師・戸田 雅

外来看護師：鵜戸 天恵

医療相談員：鶴 千江美

栄養情報だより

小林市立病院 臨床栄養室

9月1日～30日は厚生労働省が定める「食生活改善普及運動」の期間です。



食事をおいしく、バランスよく

生活習慣病の特性や運動・食事・禁煙など生活習慣の改善の重要性について理解を深め健康づくりの実践を促進する事が目的です。



令和7年度のテーマは・・・

『まずは毎日、あと一皿ずつ野菜と果物をプラス』です。

毎日続けるためには食事を美味しく楽しく食べて、取り組みやすい行動から実践する事が大切です。自分の食事を振り返り、一緒にできる事から始めてみませんか？

☆野菜をプラス一皿増やしましょう



野菜はビタミン・ミネラル・食物繊維を豊富に含み、生活習慣病の予防が期待されています。

目標の野菜摂取量
350g

実際の野菜摂取量
平均 280g



サラダ一皿分(約 70g)
不足しています。

そのまま食べられる野菜や冷凍野菜を常備して

毎日の食事に少しずつ増やしてみましょう！

☆毎日果物を食べましょう



果物はビタミン・ミネラル・食物繊維を豊富に含み、毎日果物を食べることは健康維持に役立つとされています。

1日 200g の果物を目安に毎日続けて食べましょう！



＜果物 200g の目安＞

みかん・・・2個 りんご・・・1個 キウイ・・・2個

2種類組み合わせる時は半分ずつ食べましょう。

※食べる量には個人差があります。食事指導を受けたことがある方は管理栄養士にお尋ねください。



5 階病棟紹介



5 階病棟は、消化器外科・腫瘍外科を中心とした 54 床の急性期一般病棟です。手術療法や化学療法および終末期の患者さんを多く受け入れています。治療を受ける患者さんは、高齢な方や複数の疾患を抱える方も多く、医師・薬剤師・管理栄養士・リハビリスタッフなど多職種の医療スタッフと連携を図りながら、患者さんが安心して治療を受けられるようチーム医療に取り組んでいます。また、患者さんそれぞれの生活背景や価値観を尊重し、「その人らしい」療養生活を送っていただけるようサポートしています。



当病棟には、がん化学療法看護認定看護師が在籍しており、安全に抗がん剤治療が行えるような体制づくりをすすめています。副作用の確認とケア、そして患者さんご自身がセルフケア能力を高められるよう援助を行っています。これからも患者さんご家族にとって、安心して治療や療養ができる場所であり続けるよう、スタッフ一同、専門知識と技術の向上に努め、心を込めた看護を提供してまいります。

5 階病棟 主任看護師 安田修一郎



事務部紹介



今回は財務係をご紹介します。

財務係は 2 階フロアの事務部内に組織されており、6 名の職員が在籍しています。6 名中 3 名は、入職 1、2 年目の若手職員で、先輩職員に指導を仰ぎながら、日々奮闘しております。

事務部は、医療スタッフが患者さんに質の高い医療を提供できるよう、様々な管理、補助業務を行う部署になります。その中において、財務係では、病院職員採用試験などの人事に関する事、病院職員の給与や福利厚生に関する事、病院経営に必要な予算調整に関する事、現金の出納や執行管理に関する業務など、幅広い業務を担当しています。

近年、病院経営を取り巻く環境は厳しさが増しており、人口減少による医療需要の変化や、物価高騰などによる支出の増大など、解決すべき課題が山積みです。当院では、「小林市立病院経営強化プラン」を令和 6 年 3 月に公表し、経営改善に努めているところです。

今後も、医療スタッフのより良い労働環境の整備に努め、安心安全な地域医療を提供するため、係員一丸となって業務に取り組んで参ります。

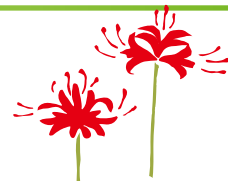
事務部 財務係長 川野 美香

スタッフのひとこと

朝夕の季節に少しずつ秋の気配が感じられるようになりました。とはいえ、日中の残暑が厳しい日も多く、体調を崩しやすくなります。

9 月は敬老の日やお彼岸など、大切な人とのつながりを感じる行事も多い季節です。夏の疲れをしっかりと癒やしながらか、よく食べて、よく休んで、元気に秋を迎えましょう。

医師事務作業補助者 中原 仁美



連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225 (直通)

FAX 0984-23-8226

Mail k_hosp4@city.kobayashi.lg.jp